

2024年11月6日

各 位

会 社 名 ブライトパス・バイオ株式会社
代表者名 代表取締役社長 永 井 健 一
 (コード番号：4594 東証グロース)
問合せ先 取締役 C F O 竹 下 陽 一
 (irpr@brightpathbio.com)

国立がん研究センターとのBP1223に関する共同研究開始のお知らせ

当社は、この度、当社が開発を手掛けるがん治療抗体であるエクトヌクレオチダーゼ⁺CD39を標的とした新規二重特異性抗体BP1223に関して国立研究開発法人国立がん研究センター（理事長：中釜斉、所在地：東京都中央区）（以下、国立がん研究センター）と共同研究を行うことになりましたので、お知らせいたします。

BP1223は、急性骨髄性白血病（AML, Acute Myeloid Leukemia）などの血液がん細胞上に多く発現するCD39と、免疫細胞であるT細胞上に発現するCD3の双方に結合する二重特異性抗体であり、がん細胞とT細胞をつなげることによって活性化したT細胞ががん細胞を排除します。

当社は、これまで血液がんを対象とした抗体医薬品創出に向けて、国立がん研究センター東病院（病院長：土井俊彦、所在地：千葉県柏市）と共同研究を進め、AML臨床検体を用いた評価において、標準化学療法によりCD39発現画分の割合が増加する現象を見出し、CD39がAMLにおける標準治療に対する反応を改善する有望な治療標的として期待できることを明らかにしました。また、当社はCD39を標的とする開発抗体として、CD39発現がん細胞を標的とした抗体依存性細胞傷害（ADCC）抗体BP1202を有しておりますが、今回、T細胞を活性化させ、がん細胞へ誘導する二重特異性抗体を創製しました。

この度、本抗体について、AMLを始めとする血液がんを対象として、臨床検体を用いた薬効薬理試験およびMoA（作用機序）解析を実施し、有望な結果が得られました。これまでの研究結果は、今年12月に開催される第66回米国血液学会（The 66th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition 2024, ASH 2024）にて、湯田淳一郎先生（国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科医長）にポスター発表をしていただく予定です。

今後、本抗体をBP1223として、臨床開発に向けて共同研究を進め、既存治療に比べより安全で有効な薬剤の創出を目指してまいります。

なお、本件に伴う研究開発費の支払いは2025年3月期に発生しますが、2025年3月期業績への影響は軽微です。

以上

【国立がん研究センター東病院について】

国立がん研究センター東病院は、1992年に設立され、年間11,000人を超える新患の方が訪れるがん専門病院です。世界レベルのがん医療の提供と新しいがん医療の創出をビジョンに掲げ、国の「特定機能病院」、「臨床研究中核病院」、「がんゲノム医療中核拠点病院」などに選定されています。数多くのアカデミア、企業が進出し産学連携の医療開発拠点として発展が進む千葉県柏市柏の葉地区に位置し、併設する先端医療開発センター（NCC-EPOC）とともに、国際的なネットワークを基盤とした研究開発の拠点として、先進的ながん治療薬・医療機器開発やゲノム医療をはじめとした個別化治療を推進し、多数の実績を上げています。

名 称	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院
所 在 地	千葉県柏市柏の葉 6－5－1
代表者の役職・氏名	病院長 土井俊彦
設 立	1992年

【用語】

*1 エクトヌクレオチダーゼ（Ectonucleotidase）

細胞膜上で細胞内から出てきたATP（アデノシン三リン酸、生物に必要不可欠なエネルギーの供給源）をアデノシン（免疫抑制等へ関わる物質）へと分解する酵素システムで、CD39とCD73がある。

【問合せ先】

ブライトパス・バイオ株式会社 管理部

E-mail: irpr@brightpathbio.com

<https://www.brightpathbio.com>